

Cold Fusion Research Laboratory (Japan) Dr. Hideo Kozima, Director

E-mail address; cf-lab.kozima@nifty.com

Websites; <http://www.geocities.jp/hjrfq930/>

<http://web.pdx.edu/~pdx00210/>

News のバックナンバーその他は上記ウェブサイトでご覧になれます

常温核融合現象 CFP (The Cold Fusion Phenomenon) は、「開いた (外部から粒子とエネルギーを供給され、背景放射線に曝された)、非平衡状態にある、高密度の水素同位体(H and/or D)を含む固体中で起こる、核反応とそれに付随した事象」を現す言葉で、固体核物理学(Solid-State Nuclear Physics)あるいは凝集体核科学(Condensed Matter Nuclear Science)に属すると考えられています。

CFRL ニュース No.85 をお送りします。この号では、次の記事を掲載しました。

1. 4 編の論文が *Reports of Cold Fusion Research Laboratory* に発表されました。
2. 科学者の品位について(2)

1. 4 編の論文が *Reports of Cold Fusion Research Laboratory* に発表されました

次の 4 編の論文が *Reports of Cold Fusion Research Laboratory* に発表され、CFRL ウェブサイト <http://www.geocities.jp/hjrfq930/Papers/paperr/> に掲載されました。

- (1) H. Kozima and K. Kaki, “Atomic Nucleus and Neutron — Nuclear Physics Revisited with the Viewpoint of the Cold Fusion Phenomenon,” *Reports of CFRL (Cold Fusion Research Laboratory)* **14-1**, 1 – 31 (March, 2014)
- (2) H. Kozima, “Nuclear Transmutation in Actinoid Hydrides and Deuterides,” *CFRL (Cold Fusion Research Laboratory)* **14-2**, 1 – 18 (March, 2014)
- (3) H. Kozima, “Nuclear Transmutations (NTs) in Cold Fusion Phenomenon (CFP) and Nuclear Physics,” *CFRL (Cold Fusion Research Laboratory)*

14-3, 1 – 35 (March, 2014)

(4) H. Kozima, “The Cold Fusion Phenomenon – What is It?” *CFRL (Cold Fusion Research Laboratory)* 14-4, 1 – 26 (March, 2014)

2. 科学者の品位について(2)

前号 (CFRL ニュース No. 84) で、科学が真理の探究を目的とする人間活動であること、したがってその営みはそのこと自体に価値があることは当然のこととしてなされるはずであることについて、言わずもがなのことを、あえて、述べさせていただきました。

科学者の品位を疑わせるいろいろな報道がなされて久しくなりますが、最近はその頻度が増えているような気がします。それにしても、STAP 細胞をめぐる報道には、理研という日本の代表的な研究機関を舞台にした問題だけに、驚きを通り越して、啞然とさせられました。

門外漢が事の真相を明らかにするには、判断材料としてのデータも解析能力も不足していますが、*Nature* に出た論文を眺め¹⁾、理研の中間報告²⁾でも認められた画像の酷似を見、博士論文に関する *Wall Street Journal* への O 氏のメールと同誌の解説³⁾を読む限りでは、理研の責任者の幾つかの発言の正しさが浮き彫りされるばかりです。

曰く、

「改ざんとの認定にいたった DNA 画像の切り張りについて、O さんは『やってはいけないという認識がなかった』と話していたといい、理研の調査委員会の I 委員長は『抵抗がなかったのか倫理観を学ぶ機会がなかったのか。コメントするのは適切ではない』と言及した」

「通常の研究者はこういうことはしない。論文の体をなしていない」

「未熟な研究者が膨大な実験データを集積しながらさんに無責任に扱ってきたのはあってはならないこと。徹底的に教育しなおさないといけない。氷山の一角かもしれないので、倫理教育をもう一度徹底してやりなおしたい」

なぜこのようなことが起こり得たのか？ 個人の問題はもちろんのことですが、組織としての問題の大きさは、理研の理事長の言をまつまでもなく、非常に深刻に受け止めなければならないでしょう。

「なぜ、内部で『改ざん』を防げなかったのか？」、

「なぜ『論文の体をなしていない』論文が投稿され、受理され、出版されたのか？」、

「なぜ『未熟な研究者が膨大な実験データを集積しながらさんに無責任に扱ってきた』という体制はどうしてできたのか？」、などなど、真剣に考えなけ

ればならないこと事柄です。

常温核融合現象の研究は、科学界ではほとんど無視されている状態であることは誰でもが認めることでしょう。それ故に、STAP 細胞事件を他山の石として、事実に謙虚に向き合い、真実の追求の重要性をアピールしてゆかねばならないと思います。

参考文献

- 1) H. Obokata, T. Wakayama, Y. Sasai, K. Kojima, M.P. Vacanti, H. Niwa, M. Yamato & C.A. Vacanti, “Stimulus-triggered fate conversion of somatic cells into pluripotency,” *Nature* **505**, 641–647 (30 January 2014) doi:10.1038/nature12968 (2014)
- 2) 理研調査委員会中間報告
www.riken.jp/~media/riken/pr/topics/2014/20130314_1/document-4.pdf
- 3) *Wall Street Journal* March 14, 2014 “Head of Japan's Riken Institute Apologizes Over Stem-Cell Papers - Disputed Papers Contained 'Serious Errors' “ By Alexander Martin And Toko Sekiguchi.
<http://online.wsj.com/article/SB1000142405270230491490457943...>